

2026年成果報告書

概要



7200万
の命が
グローバルファンドのパートナーシップ
により救われました

三大感染症対策の現状と2025年の主な成果

2025年は、グローバルヘルスにとって激動の年となりました。国際的な支援資金が急速かつ大幅に削減され、人命を救う保健医療プログラムに深刻な打撃を与えました。このような状況下であってもグローバルファンドのパートナーシップは確かな対応力と適応力を示し、各国やパートナーと連携して、エイズ、結核、マラリア対策を前進させてきました。2025年、グローバルファンドのパートナーシップは必要不可欠な保健医療サービスを維持するとともに、革新的な医療技術へのアクセスを推進しました。2002年以来、グローバルファンドが支援する国々では、三大感染症全体での罹患率は43%、死亡率は65%減少し、7200万の命が救われました。この勢いを今後も維持するには、各国やコミュニティの継続的なリーダーシップ、革新的な技術の迅速かつ公平な展開、そして、より強固で持続可能な保健システムが不可欠です。

HIV/エイズ

2002年以降、グローバルファンドは、HIV対策に285億米ドル、HIV/結核対策に96億米ドルを投資してきました。グローバルファンドが支援する国々では、2002年から2025年の間にエイズ関連の死亡率は84%、HIVの罹患率は75%減少しました。2025年には、グローバルファンドが支援する国々でHIV陽性者の87%が自身の感染状況を把握しており、80%が抗レトロウイルス治療(ART)を受け、74%でウイルス量が抑制されていました。HIV陽性の妊産婦の90%がARTを受けました。2025年、グローバルファンドは最も必要とされる分野に重点をおいて投資しました。サービス提供方法の最適化、統合の推進を図るとともに、コミュニティに根ざしたサービスを含む予防・検査・治療の継続に取り組みしました。レナカパビルをはじめとする画期的なイノベーションへのアクセスを拡大しました。

結核

2002年以降、グローバルファンドは、結核の予防・治療プログラムに109億米ドル、結核/HIV対策に96億米ドルを投資してきました。支援対象国において、2002年から2024年の間、結核による死亡率は60%、罹患率は33%減少しました。2024年の結核治療のカバー率は79%となり、薬剤耐性結核の推定患者数の42%が治療を開始しました。結核の治療成功率は89%となり、結核に罹患したHIV陽性者の93%がARTを受けました。2025年、グローバルファンドは欠かすことのできない結核予防プログラムを各国が継続できるよう支援するとともに、最も感染リスクが高い地域での結核患者の発見、薬剤耐性結核に対する、より短期の治療法の普及を進めてきました。また、子どもへの対策を優先し、取り組みの効率化を図りました。

マラリア

2002年以降、グローバルファンドはマラリア対策に214億米ドルを投資してきました。グローバルファンドの支援対象国において、2002年から2024年の間にマラリアによる死亡率は51%、罹患率は22%減少しました。2024年には、マラリアの感染リスクがある人々の55%が殺虫剤処理蚊帳を利用できるようになり、マラリアへの感染が疑われる人の97%が検査を受けました。2025年、複数の危機が重なり、マラリア再流行のリスクが高まる中、グローバルファンドは各国がこうした状況に適應できるよう支援しました。支援が届きにくい地域や紛争の影響を受けている地域で命を救うための対策を優先し、予防を強化するとともに、保健医療へのアクセスを拡大し、対策に欠かすことのできない疾病サーベイランスを維持するとともに、治療法の多角化を図り、次世代の医薬品や新たなベクターコントロール(媒介生物制御)ツールの導入に向けた準備を進めてきました。

主要な成果

2690万人

抗レトロウイルス治療を受けている
HIV陽性者数

1210万件

優先度の高い人々/キーポピュレーションを
対象としたHIV検査実施数

1000万人

HIV予防サービスを受けた人数
(うち620万人はキーポピュレーション)

62万3000人

母子感染予防のために医療を受けたHIV陽性
の妊婦の数

110万人

抗レトロウイルス薬による曝露前予防を開始
した人数

740万人

結核治療を受けた人数

11万5000人

薬剤耐性結核の治療を受けた人数

30万2000人

結核治療中に抗レトロウイルス治療を受けた
HIV陽性結核患者数

150万人

結核の予防的治療を開始した抗レトロ
ウイルス治療中のHIV陽性者数

350万人

結核に曝露し予防的治療を受けた人数

1億9600万張

マラリア予防のため配布された殺虫剤処理
蚊帳の数

3億6700万件

マラリアが疑われる症例の検査数

1億6700万件

治療したマラリアの症例数

5210万人

季節性マラリアの化学的予防(服薬)を受けた
子どもの数

1990万人

マラリアの予防治療を受けた妊婦の数

サービス・カバー率、成果、疾病負担の数値は、WHO(結核およびマラリアに関しては2025年発表)およびUNAIDS(2026年発表)による最新データに基づいています。資金供与額は、2026年6月30日時点の数値です。プログラムの成果は、2025年中にグローバルファンドが支援する国々や地域で2025年に達成されたものです。詳細は、グローバルファンドの [Results Methodology](#) をご参照ください。

イノベーションへのアクセス拡大へ

グローバルファンドのパートナーシップは、エイズ、結核、マラリア対策の進展を持続させ、限られた資金をより有効に活用するため、最先端のイノベーションへのアクセス拡大に向けた取り組みを強化しています。HIV予防への取り組みとして、レナカパビルの提供と普及拡大を支援しています。結核のスクリーニングでは、AIを活用したデジタルX線検査へのアクセスを拡大しており、2026年からは、ニア・ポイント・オブ・ケア診断検査の導入を支援しています。マラリア予防においては、二重有効成分を用いた殺虫剤処理蚊帳の利用を推進し、2026年には、蚊を屋内に寄せ付けない技術の導入を進めています。

一方、イノベーションは、それを最も必要としている人々に届いて初めて、その価値（インパクト）を発揮します。パートナーとともに、私たちは市場を形成し、価格を引き下げ、これらの新たなツールの開発から展開までのプロセスを迅速化しています。今後も、各国の地域内での製造・調達の強化、より強靱なサプライチェーンの構築を支援するとともに、イノベーションを迅速かつ公平に、多くの人々に届けるための準備を支援していきます。



各国の自立に向けた取り組みの支援

国際的な支援資金の急激な減少により、エイズ、結核、マラリア対策および保健システム強化において、各国が主体となって取り組み、国内資金の確保を進め、外部支援への依存を減らす必要性が一層高まっています。

グローバルファンドのアプローチにおいて、各国の自立は不可欠な要素です。2025年には、保健財政に関する対話や改革、公共財政管理を強化する取り組み、国内投資を促す各国の状況に応じた共同出資・自国負担の要件を通じて、各国のこうした自立に向けた歩みを支援しました。また、次の事業実施期間に向けた新たな戦略的な転換策についても策定しました。今後は、所得水準が最も低く、疾病負担が最も大きい国・地域に一層重点を置くとともに、移行に向けたタイムラインを明確に定めるなど、限られた資金を最大限に活用しながらこれまでの投資による成果の持続可能性を確保していきます。コミュニティを主軸に、イノベーションを活用して、エイズ、結核、マラリアの終息に向けて取り組んでいきます。

写真(上)：ウズベキスタンのパストダルゴムにある移動クリニック内で、検査技師がAI搭載のCAD4TBスクリーニングソフトウェアを使用して肺のX線画像を解析する様子。

写真(左)：モザンビークのナンブラ州にあるメケア保健センターで、妊産婦や授乳中の女性を対象に啓発セッションを行うメンターマザーたち。メンターマザー・イニシアチブは、国の保健システムに組み込まれたピアサポートプログラムで、HIVの母子感染の予防や母子の健康推進に取り組んでいます。

The Global Fund/Vincent Becker



グローバルファンドとは

世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）は、エイズ、結核、マラリアの流行を終息を目指し、すべての人にとって健康で安全、かつ公平な未来を築くための世界的なパートナーシップです。年間40億米ドル以上の資金を調達・投資し、最も影響が深刻な100か国以上における、三大感染症との闘い、感染症を助長する不公平の克服、保健システムの強化、パンデミックへの備えに投資しています。世界のリーダー、コミュニティ、市民社会、ヘルスワーカー、民間セクターと連携して最も効果的な解決策を見出しながら、世界規模で展開しています。2002年の設立以来、グローバルファンドのパートナーシップの支援により7200万の命が救われました。

2026年9月 | theglobalfund.org